オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(126)(HP 収載)
―ユジャ・ワンの楽友協会演奏―

１．始めに

前報(125)に引き続き、STAGE+のユジャ・ワンの楽友協会の演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、ユジャ・ワンの楽友協会の演奏を選びました。
ライブ配信 2024 年 1 月 27 日 23:30
ユジャ・ワンが楽友協会で弾き振り
マーラー・チェンバー・オーケストラ
再配信 2024 年 1 月 28 日 10:00
再配信 2024 年 1 月 28 日 20:00
スター・ピアニストのユジャ・ワンは 2024 年の 1 月、トップレベルの音楽家で構成されたマーラー・チェンバー・オーケストラとの共演でイタリア～フランス～ドイツ～オーストリアの順に欧州を巡り、ピアニストと指揮者、両方の役を担って活躍します。ツアー最終日のステージはウィーンの楽友協会で、モーツァルトとドヴォルザークのセレナードに加えて、20 世紀の同時期に書かれたストラヴィンスキーとガーシュウィンによる、ピアノと管弦楽のための作品を披露。特にファーディ・グローフェが編曲を手掛けたピアノとジャズ・バンド版《ラプソディ・イン・ブルー》にご期待ください。
ソリスト:
ユジャ・ワン（ピアノ）
演奏:
マーラー・チェンバー・オーケストラ
曲目:
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト　セレナード変ホ長調 K. 375
イーゴリ・ストラヴィンスキー　ピアノと管楽器のための協奏曲
アントニン・ドヴォルザーク　セレナードニ短調 op. 44
ジョージ・ガーシュウィン　《ラプソディー・イン・ブルー》
（ピアノとジャズ・バンド版）

３．試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PC の 2 本の LAN ケーブルに LAN アキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

2024 年 1 月 28 日 10:00 の再配信を試聴しましたが、受信は安定していました。

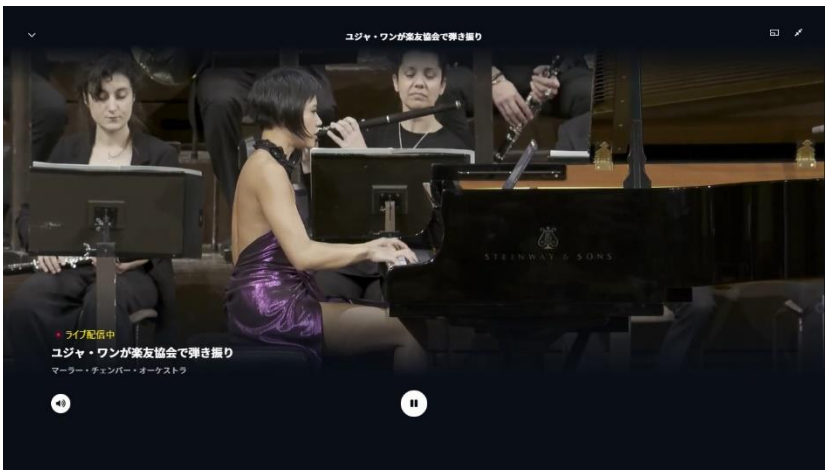
モーツァルトのセレナード変ホ長調は、マーラー・チェンバー・オーケストラの木管のパートの構成による管楽アンサンブルの演奏です。いかにもモーツァルトのセレナードといった演奏で、木管の優雅な音がウィーン楽友協会のホールに響きます。

ストラヴィンスキーのピアノと管楽器のための協奏曲は、木管と金管と打楽器とコントラバスから構成されるマーラー・チェンバー・オーケストラとピアノの演奏です。ストラヴィンスキーの曲らしく、金管と打楽器が派手に活躍し、ユジャ・ワンのピアノも攻撃的な演奏です。

ドヴォルザークのセレナードニ短調は、管楽器主体のマーラー・チェンバー・オーケストラの演奏です。モーツァルトのセレナードと違って、どこか懐かしい牧歌的な曲です。

ガーシュウィンの《ラプソディー・イン・ブルー》は、サキソフォンやバンジョーに弦楽器のパートも加わり、冒頭のクラリネットのソロから始まり、あたかもジャズ・バンドのような演奏です。ここでもユジャ・ワンの切れのよい演奏が聴けます。

アンコール曲の曲名は分りませんが、ジャズ調の即興演奏のようでした。


ユジャ・ワンが楽友協会で弾き振り
STEINWAY & SONS
ライブ配信中
ユジャ・ワンが楽友協会で弾き振り
マーラー・チェンバー・オーケストラ

ユジャ・ワンが楽友協会で弾き振り
ライブ配信中
ユジャ・ワンが楽友協会で弾き振り
マーラー・チェンバー・オーケストラ

４．まとめ

LAN アキュライザーと Crstal EpL の効果により、モーツァルトからストラヴィンスキー、ドヴォルザーク、そしてガーシュインと多様な作品に対し、ピアノと管楽アンサンブルの多彩な音の表現をリアルに捉えていました。

以上